



阿部長商店 代表取締役副社長 阿部隆二郎さん(60)

二つの遺構で風化防止へ

20人の命を救った
らせん階段

東日本大震災が発生した2011年3月11日は、気仙沼市田中前の取引先で故・阿部泰児会長と打ち合わせをしていました。午後2時46分、激しい横揺れに襲われ、高台の弊社ホテルに車で向かいました。会長の指示で内の脇にある自宅(敷地内に本社隣接)に行きました。自宅には外付けのらせん階段が備えられています。06年7

月、会長が津波対策として設置したもので、内の脇2区自治会ではこの階段を利用し、避難訓練を行っていました。自宅に着いた時はすでに、近所の人たちや社員などがらせん階段を使って屋上に避難してしまっていました。階段のおかげで、約20人の命が助かっています。

階段は後に「命のらせん階段」と命名し、「高野会館」(志津川)と共に震災伝承施設として、東北地方整備局の登録をいただきました。

私と会長が家のこの階段を上り始めるとすぐ「ザザザ」という滝のような音が聞こえました。津波が家にぶつかった不気味な音です。

屋上から見下ろすと、家の周りにはがれきが流れ着いていました。夜は気仙沼湾で火災が発生し、一面が炎に包まれ、黒煙が上がりました。火がついた浮遊物が、臭いもしました。火がつついた浮遊物が、行ったり来たりし、自宅に引火しないか、とても不安でした。

屋上にはペントハウス(物置場)があり、避難者に使ってもらいました。津波を免れた2階と3階の部屋から布団と毛布を持ち込み、暖を取りました。

12日の夜はサンマリン気仙沼ホテル観洋に宿泊。翌朝、宿泊客に貸し出している電動自転車で、南三陸ホテル観洋(志津川)に行くことになりました。

同行した弊社の伊藤孝相談役の自宅が南三陸町歌津貝

だったので地理に詳しく、沿岸部を通らずに山側を歩き、知り合いの軽トラなどに乗せてもらいながら、避難所になっていた志津川小学校に到着。娘(当時小学4年生)と再会することができました。

自分は志津川中学校の教室で一晩過ごし、ホテルに戻ったのは地震から4日目の14日の夕方でした。

ホテルは1階と2階が大きな被害を受けました。避難者を受け入れたが、避難者を受け入れられました。地震の日は約3500人、翌日には6000人、5月5日からは2次避難所になり、医療、インフラ工事関係者を含め、約千人を受け入れました。

最善の注意を払ったのが感染症です。6月になり、業者が海水を真水に変えるシステムを設置してくれたおかげで、感染症は一人も出ませんでした。

ホテルは1階と2階が大きな被害を受けました。避難者を受け入れたが、避難者を受け入れられました。地震の日は約3500人、翌日には6000人、5月5日からは2次避難所になり、医療、インフラ工事関係者を含め、約千人を受け入れました。

冠婚葬祭場だっただった高野会館と旧自宅は震災遺構として残します。両方とも人命を救った建物なので、教訓を伝えていく施設には、必ずわしいと考えます。

旧自宅は、市が整備する南気仙沼復興市民広場のグラウンドの中央にあり、駐車場の市有地に移

けましたが、避難者を受け入れられました。地震の日は約3500人、翌日には6000人、5月5日からは2次避難所になり、医療、インフラ工事関係者を含め、約千人を受け入れました。

高野会館は、危険箇所を除去したほかは、ほぼ震災当時のまま残りました。震災語り部バスのコースに入っています。

震災伝承ネットワーク協議会(東北地方整備局、県などで構成)が発行する震災伝承施設マップ

「3・11伝承ロード」にも紹介されています。この二つの遺構を防災教育に有効活用していただきます。

震災から10年目を迎えました。明治、昭和の津波のように、多くの犠牲者を出したことも忘れ去られようとしています。風化防止に努めなければなりません。

震災の教訓を後世に

当ホテルは新型コロナウイルスの影響で、3月が5割、4、5月が9割、お客さまが減少しました。6月からは微増に転じましたが、感染者が全国で増加しており、不安が尽きません。

「Go To キャンペーン」では、内容が二転三転し、先行きがさらに不透明になりました。

県をまたいでの移動(宿泊)は許され

ているので、2次、3次の感染拡大が起る可能性があります。当ホテルとしては、3密を避けることに精力を注いでいきます。

スタッフとその家族には、都市部への不要不急の外出を控えるようお願いしています。

コロナ禍で被災地に足を運ぶ人が少なくなると、震災の風化は進みます。終息には時間がかかりますが、ワクチン、治療方法が確立されるまでは「ウィズコロナ」を念頭に置いて、営業している、営業していかなくてはなりません。

さらに今、各地で自然災害が発生しています。避難所がクラスターになる可能性があります。いかなる環境下でも衣食住の食と住、衛生面が完備しているホテル業を営みながら、震災の教訓を伝承して参ります。

震災の教訓を伝承して参ります。